

(38) M4 and M5 Reduces Chemotherapy Toxicity in Breast Cancer Patients

文献名

Federation of American Societies for Experimental Biology Journal, Vol. 14, No. 4, p. A720, 2000 (Abstract).

著者

A. Srivastava,* A. Samaiya,* V. Taranikanti,* P. Kachroo,* O.H. Coshic,* R. Parshad,* V. Seenu,* S. Chumber,* M.C. Misra,* and H. Sharma.**

実施場所

**All India Institute of Medical Sciences, New Delhi, India 110029

**The Ohio State University, Columbus, OH 43210 and Title Reducing the Toxic Effects of Chemotherapy: New Research Reports a Significant Decrease in Chemo Toxicity with a Natural, Ayurvedic Herbal Formula

出版

Townsend Letter for Doctors and Patients, August/September 2000, pp. 134-138. Author John Thill.

要約

この無作為抽出試験は、ハーブの混合物アムリット 4 とアムリット 5 の、化学療法を受ける乳癌患者の有毒副作用が減少する効果を測定するために行われた。研究に関与したのは 129 人の乳癌患者(124 人の女性および 5 人の男性)であった。2 種類の化学療法手続きが使用された: シクロフォスファミドとアドリアマイシンと 5-フルオロウラシル(33 人のアムリット患者および 32 人のコントロール患者)、もう一つは、シクロフォスファミドとメトトレキサートと 5-フルオロウラシル(28 人のアムリット患者および 36 人のコントロール患者)。

患者は、28 日間の間隔で 6 つのサイクルの化学療法を受け、そして嘔吐の抑制剤として ondansetron をとった。患者は、世界保健機構(WHO)の薬剤の副作用の基準によって評価された。

アムリット患者および対照群の平均年齢は類似していた: アムリットグループは 43 ± 10 で対照群は 46 ± 9 であった。研究の結果は、対照群と比較して、アムリットをとる患者にはいくつかのパラメーター(カルノフスキー・スコア、拒食症、吐き気、一般的な健康および体重)における改善が見られた。

化学療法の第 6 サイクル中に、正常な日々の活動を行なう能力を測定するカルノフスキー・スコアで健康な得点を得た者がアムリット患者では 27% 多かった。また全体の平均でもアムリット患者の方が 17.5% 高かった。

化学療法の第 4 サイクル中に、食欲減退(拒食症)を経験したアムリット患者は 34% 少なかった。また全体の平均でもアムリット患者の方が 26% 少なかった。

吐き気を経験したアムリット患者は 29% 少なかった。また全体の平均でもアムリット患者の方が 22% 少なかった。さらに第 3 サイクル中に、一般的に良い健康状態を示した患者は、対照群に比べアムリット患者の方が 25% 多かった。全体の平均でも 12% 高かった。

対照群の患者が統計的に有意に 1.12kg 体重が減少したのに対して、アムリット患者は統計的に有意に 0.43kg 体重が増加した。このように、アムリットの上の患者は治療中に重量を維持することができた。

この研究のもう一つの重要な発見は、腫瘍の緩解に関してアムリット患者と対照群の間に際だった違いはなかったということである。腫瘍の緩解を有する患者数の増加に関しては、アムリットグループは統計的に有意ではなかった。これは、アムリットが化学療法の抗癌治療を妨害しないことを示している。このように、アムリットは、化学療法の抗癌効果を害さずに、化学療法による毒性を減少させるのに有効である。